

9 日ロ地先沖合漁業交渉

日本とロシアとの間では、昭和 59 年 12 月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件について日ロ漁業委員会が決定し、相手国 200 海里水域内に入漁しています。

平成 27 年 12 月の日ロ漁業委員会第 32 回会議では、以前から要望していたマダラについては、前年を大きく上回る割当量が確保されましたが、スケトウダラについては、近年の資源量減少に伴い、割当量が大幅に減少し、全体漁獲割当量は 6 万 3,455 トンの漁獲割当量となっています。

(1) 合意内容

① ロシア 200 海里水域における日本漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

区分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総漁獲割当量	51,355t	62,096t	71,303t	62,395t	63,455
総隻数	546 隻	546 隻	546 隻	546 隻	546 隻

イ. 有償入漁

区分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総漁獲割当量	5,098t	5,098t	4,998t	2,026t	1,044t
総隻数	45 隻	45 隻	45 隻	22 隻	22 隻
入漁料	2 億 1,148 万円	2 億 1,148 万円	2 億 1,148 万円	8,743 万円	3,368 万円

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年	
	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁
スケトウダラ	10,126t	2,900t	1,500t	1,078t	500t	129t
マダラ	821.5t	190t	1,108.8t	190t	1108.8t	190t
サンマ	51,370t	-	51,370t	-	53,020t	350t
イカ	7,217t	580t	7,007t	150t	7,309t	14t
その他	1,768.5t	1,328t	1,410t	608t	1,518.1t	361.7t
計	71,303t	4,998t	62,395.8t	2,026t	63,455.9t	1,044.7t
	76,301t		64,421.8t		64,500.6t	

② 日本 200 海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

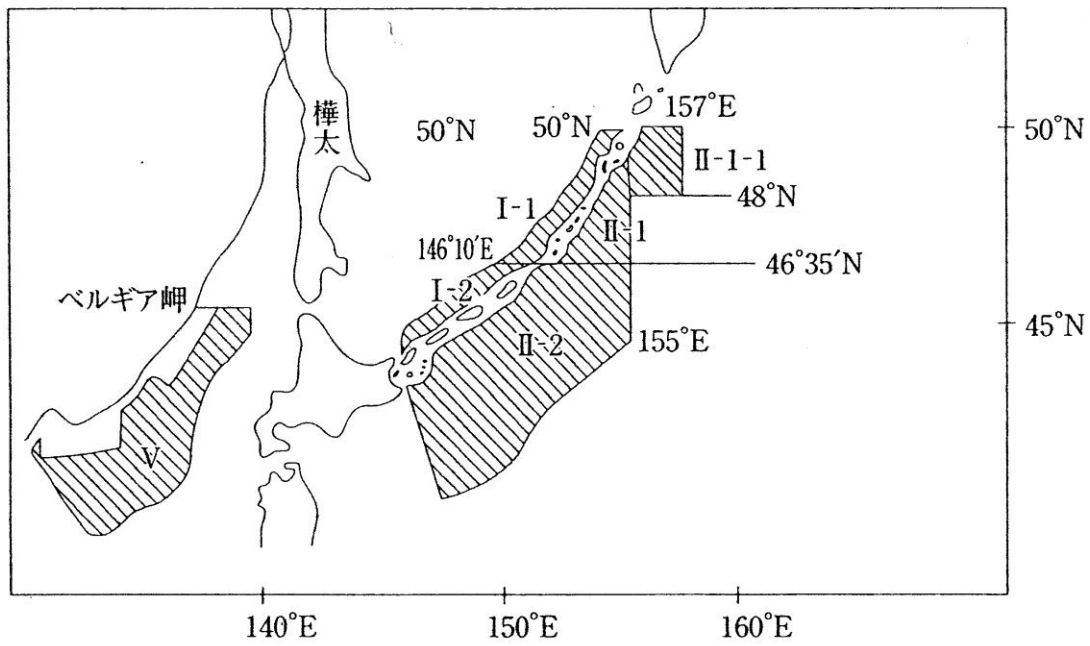
ア. 相互入漁

区分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総漁獲割当量	51,355t	62,096t	71,303t	62,395t	63,455t
総隻数	101 隻	101 隻	101 隻	101 隻	101 隻

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
イワシ・サバ	13,296t	13,296t	27,005.9t
イトヒキダラ	27,800t	27,800t	27,800t
サンマ	30,207t	21,299t	8,650t
その他	-	-	-
計	71,303t	62,395t	63,455.9t

(2) 日口地先沖合漁業交渉操業海域図



○ 相互入漁水域		
I-1区	千島（オホーツク海側北）	底はえ縄
I-2区	千島（オホーツク海側南）	底はえ縄
II-1区	千島（太平洋側北）	中層トロール、底はえ縄、棒受け網
II-1-1区	千島（太平洋側北）	中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2区	千島（太平洋側南）	底はえ縄、棒受け網
V区	日本海	いか釣り
○ 有償入漁水域		
II-2区	千島（太平洋側南）	着底トロール、中層トロール

資料：北海道水産林務部漁業指導課

注：II-1、II-1-1、の中層トロール・着底トロールは、遠洋底びき網、
II-2の着底トロール・中層トロールは、沖合底びき網